

移住者が語る 函館暮らし



※「お仕事」は取材当時のものです

温泉、レジャー、公園。 函館は癒しの町

撮影場所：大森浜

池上 祐治郎さん

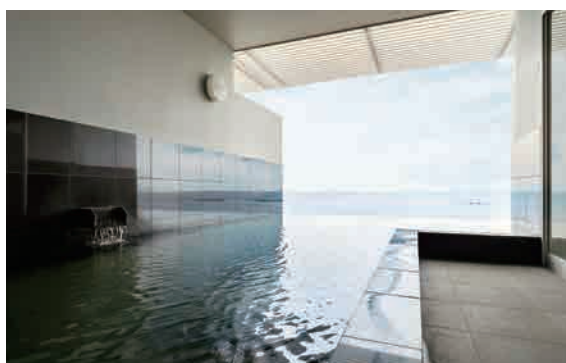
【前居住地】神奈川県藤沢市

【お 仕 事】会社員（飲食店運営「株式会社エイチケアール」勤務）

Keyword

I ターン
（妻はUターン）

地元企業に就職



函館は日帰り温泉が多く、湧出量も豊か。市内でも場所により泉質や湯色が異なります。海を眺めながら浸かれるところも。写真は湯の川地区にある湯の浜ホテルの温泉（日帰り利用可）。



「家族一緒に暮らすための移住でしたが、函館は夏の暑さもエアコン不要、扇風機でしのげますし、初めてなので心配していた冬の雪道の車の運転も、今ではすっかり慣れました。過ごしやすい町です」と、池上さん。

妻の故郷へ。家族一緒に暮らしたい

函館に住む義父が体調を崩し、神奈川県藤沢市から、先に妻が入園前の娘を連れて函館へ戻りました。その後2年間は夏や冬の休みに2人が藤沢に来る、というスタイルが続きましたが家族一緒に暮らしたく、追いかける形で移住しました。現在、勤務先近くの市内湯川町で暮らしています。

再就職先がスムーズに決まった喜び

移住するための準備として再就職先を探したところ、以前食事をしたことのある人気のグルメ回転寿司店・函太郎の求人が目にとまりました。お話を伺うと、タイミングよく新店舗出店に合わせての採用をいただきました。すぐに仕事も決まって家族一緒に暮らせるようになったのが、一番嬉しかったです。

自然豊かな函館は季節ごとの楽しみ方も

休日は家族で、歴史ある風景式庭園の香雪園（市内見晴町）や天気に関係なく遊べるグリーンピア大沼（茅部郡森町）等で楽しんでいます。香雪園は秋のライトアップもあり、きれいです。自分は温泉が好きで日帰り湯をよく利用しますが、絶景を眺められる温泉もあり、海も山もある函館は故郷を思い出させてくれます。

函館しごとネット

東京や札幌など「渡島・檜山管内」以外にお住まいで、函館市での仕事を希望される方のサポートを目的とするポータルサイト（函館市経済部運営）。サイト内フォームから求職者登録すると、求人情報の詳細閲覧やIJUターン相談コーナーへのマッチング依頼が可能。市内企業情報、創業・起業情報、就職に関するイベント情報などの発信も。

<https://hakodate-job.net/>



夫と想いを共有。 移住は迷いも悔いもゼロ

撮影場所：Cafe&Deli MARUSEN

田中 香那子さん

【前居住地】神奈川県横浜市
【お 仕 事】翻訳業

Keyword

I ターン
(夫はJターン)
子育て



桜満開の五稜郭公園から北に望む横津山系。山と海に挟まれて、函館ではやさしく移ろう季節を感じることができます。「憧れていた、山並みを眺められる暮らしも移住で手に入れることができました」と、田中さん。



移住して、家族で過ごせる時間が増えた田中さんご一家。函館は近隣にも家族でのお出かけにぴったりの楽しい場所がたくさん。写真は木古内町で廃線跡を利用したトロッキ乗車体験が人気の「道南トロッキ鉄道」にて。

夫の希望で縁を感じる函館へ

神奈川県横浜市で暮らしていましたが、青森県出身の夫が「北国へ帰りたい」と言ったのが移住のきっかけです。私自身、都会で子どもを連れて外出するのに、どこへ行くのにも行列、混雑で辛く、ゆっくりと子育てをしたいと賛成しました。実の兄も以前、仕事で1年ほど函館に住んだことがあり、縁を感じています。

函館暮らしで手に入れた掛け替えのない時間

夫は経験を活かせる仕事を北海道エリアで探し、地元企業のIT部門の求人に応募、採用となりました。以前は朝、仕事へ出かけたら帰りが深夜になるのが当たり前の夫でしたが、今は午後7時には帰宅して、子どもたちとふれ合う時間が持っています。

私自身は在宅で翻訳の仕事をしていますが、函館市の「子育てサロン」「ファミリー・サポート」制度は心にゆとりをくれます。子育てサークルでも、世界が広がりました。函館の皆さんは温かな距離感で移住者を受け入れてくださいます。一人の時間は函館蔦屋書店かお気に入りのカフェで。函館のカフェはレベルが高く、ご飯もびっくりするほど美味しいです。

函館の子育て支援制度

●子ども医療費助成制度 中学卒業までのお子さんの医療費の一部を助成(所得制限あり) ●子育てサロン(地域子育て支援センター) 専任職員による子育て相談可 ●ファミリー・サポート制度 育児の手助け依頼者と提供者を結ぶ ◆問い合わせ: 函館市子ども未来部(医療費助成/電話0138-21-3181、子育てサロン/電話0138-21-3284)、函館市ファミリー・サポート・センター(電話0138-23-3920)



Uターンして実感。 函館は懐の深い美しい町です

撮影場所：函館市東山町

中川 真吾さん

【前居住地】北海道札幌市

【お 仕 事】株式会社ロカラ 代表取締役

Keyword

Uターン

異業種からの起業

子育て



(株)ロカラの通信販売サイト「道南地元市場」。地域の農林水産業の「つくり手」の声を直接聞くことで地域の真の価値を引き出し、世界に発信。「第一次産業はカッコいい、という人を増やしたい」と、中川さん。



中川さんご家族のお気に入り、道立「道南四季の杜公園」(市内亀田中野町)。大型遊具のある「野原の丘」や里山風景の「小川の里」など4ゾーン。子どもと一緒に楽しめる場所が多いのも函館の暮らしやすさの一つ。

放射線技師を辞め札幌からUターン

弘前大学医学部卒業後、札幌で8年間、診療放射線技師の仕事をしていました。やりがいとはとてもあったのですが、命の狭間を見る毎日、年を重ねるごとに両親と故郷への思いがよぎるようになっていました。そんななか子どもが生まれ、共働きでの子育て環境等もあって、総合的な判断でUターンを決めました。

第一次産業を応援する会社を立ち上げ

実家は代々農業です。先祖が守ってきたものを自分も守りたく、移住後、北海道の第一次産業をサポートする(株)ロカラを函館で立ち上げました。函館地域で新たな起業を後押しする「創業バックアップ助成金」制度を活用し、主に生産者と消費者とを結ぶECサイト(通信販売サイト「道南地元市場」)の企画運営をしています。

変わる力を備えた、優しく美しい町

一度よその地域を経験した上で感じるのは、函館市内には保育園や幼稚園がたくさんあり待機児童が出ず、公園も多いので子育て世代に優しい町ということ。加えて、他にはない独特で美しい地形に恵まれ、西部地域を中心に市外からの刺激もうまく取り込みながら変わっていける懐の深い町だということです。

創業バックアップ助成金制度

函館地域(函館市、北斗市、七飯町)での新たな起業への取り組みを応援。審査の上、事業実施に要する費用の一部を助成。助成金額は一般枠500万円、35歳未満の若者枠100万円(いずれも1件あたり上限)。毎年4月～5月中旬に募集。◆問い合わせ：(公財)函館地域産業振興財団 函館市産業支援センター(電話0138-34-2561〈直通〉)。



青柳町でスローライフ。 思いを叶えて3世代移住

撮影場所：五島軒本店



Keyword

I ターン

3 世代で移住

地元企業に就職

原島 雪乃さん

【前居住地】神奈川県川崎市

【お 仕 事】会社員（飲食店経営および洋菓子・レトルト製造「株式会社五島軒」勤務）



原島さんの勤務先、函館を代表する洋食レストラン、五島軒本店前で。五島軒は1879年（明治12年）創業で本館は北海道初の国指定有形文化財。ブライダルや宴会もでき、市民から愛され続ける老舗洋食店。



函館市電の復元チンチン電車「箱館ハイカラ号」イベントで、お子さんが運転士さんと記念撮影。「移住を決める前、彼が保育園で『僕は青柳小学校へ行く！』と宣言してびっくり。その言葉にも背中を押されました」と原島さん。

10年越しで実った函館への思い

函館との出会いは2006年に友人と参加した北海道旅行でした。初めて来たころから、いつかこの街に住みたいと感じ、その後は年に1～3回、個人旅行で訪れるようになりました。四季で雰囲気を変える街並みや、自然が身近な函館に魅了されました。

憧れの青柳町へ

催される多くのイベントに合わせて函館旅行を楽しみました。西部地区はその時から、住みたいと感じていた候補地。移住2年目には山と空の景色が楽しめる青柳町に家を買ひ、3世代で気ままに暮らしています。

大きな虹の見える街でゆっくりと

函館の文化と歴史が好きで、函館の歴史を存分に味わえる老舗洋食店 五島軒で働いています。西部地区の街並みを徒歩で通勤。出かけるのにも、満員の乗り物で押しつぶされそうになることもなく、路面電車やバスはいつも快適です。都会と違って空が広い函館では、雨上がりに大きな虹をよく見かけます。

移住サポートセンター

函館移住のためのワンストップ相談窓口。函館市地域交流まちづくりセンター（市内末広町4-19）内。運営はNPOサポートはこだてグループ。電話0138-22-9700

ふるさと回帰支援センター

地方暮らしやIJUターンを相談員がサポート。東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8F 電話03-6273-4401



「ひと」の魅力に触れ、 旅するように暮らす

撮影場所：函館市地域交流まちづくりセンター前

Keyword

I ターン
まちづくり

谷口 真貴さん

【前居住地】北海道厚沢部町（兵庫県出身）

【お 仕 事】移住サポートセンタースタッフ（はこだて暮らしコンシェルジュ）



函館山からの夜景は有名ですが、下北半島まで見渡せる日中の景色も壮大です。谷口さんのお勧めは日没の少し前。昼景から薄暮、そして夜景への変化がトータル1時間程度で見られます。



「移住後に長く住むためには、日々が充実していなければ。函館は文化度が高く、様々な文化的イベントや高齢者大学などの制度もあり、それらの情報を入手しやすいまちです」と谷口さん。

自分の仕事で人々の心を豊かにしたい

地元の金融機関に勤務していましたが、「人々の心を豊かにしたい」との思いを違う形で追求してみたくなり、北海道厚沢部町の地域おこし協力隊に応募しました。3年半の活動終了後、さらにまちづくりを勉強して経験を積みたいと思い、函館に移住。移住支援と市民活動のサポートなどに携わっています。

「まちと人の役に立ちたい」をお手伝い

私が携わっている函館移住のワンストップ窓口「移住サポートセンター」は、移住後も函館で楽しく暮らせるようにサポートしています。生活情報はもちろん、問い合わせに応じて様々な「人」をご紹介します。函館のために何か活動したい、新しい仲間を作りたいというご相談にも応じています。

地元の人との出会いで世界が広がる

函館在住8年目の今も、毎日が旅行気分。旅の朝のように、ワクワクして目が覚めます。街並みや景色の魅力に加え、函館には「人の魅力」があります。世話好きな人が多く、困っていたら周りの人が先に動いてくれることも。いろいろな人に出会うと、移住後の生活が充実していきます。

サロン まちセン茶論

函館移住のワンストップ相談窓口「移住サポートセンター」が主催する、市民と移住者の集い。移住後に情報交換や仲間づくりができるだけでなく、移住を決断する前に先輩移住者の生の声を聞くために参加することも可能。開催日程は「移住サポートセンター」サイトでお知らせしています。

<http://hakomachi.com/iju-support/>

◆問い合わせ：移住サポートセンター（函館市地域交流まちづくりセンター内）電話0138-22-9700



まちの「余白」が ここで働く楽しさになる

撮影場所：株式会社ハコダテミライカモン内



Keyword

起業
子育て



國分 晋吾さん

【前居住地】東京都江戸川区

【お仕事】会社経営（人材育成や事業企画開発）



函館からほど近い七飯町東大沼の体験型牧場「パド・ミュゼ」。馬とふれあいながら森の暮らしを体験できます。駒ヶ岳を望む大自然の中で汗を流す「テントサウナ」が國分さんのお勧め。



「函館は自然が近く、少し足を延ばせばいろいろなアクティビティがあります。人と人とのつながりも密接で助け合う風土があり、子育てにこんな良い場所はないと思います」と國分さん。

満載の魅力があるまちで「なにか」したい

旅行で訪れた際に経験した、衝撃的なほどの「食」の魅力。そして、西部地区の独特の空気感や港町の風情、歴史と文化に彩られた街。魅力満載なのに街の閑散とした雰囲気がアンマッチで、そこに可能性を感じました。もともと地方に憧れがあったので、この地域で「なにか」したい！と考えて移住を即決しました。

まちと関わりながら働く喜び

函館には「誰もやっていないこと」がまだ多くあるので、自分の介在できる余白があり、自分の仕事が地域に反映された実感も得られます。観光地で人の流動が多いため、飲食・物販をはじめ様々な分野でいろいろなトライができます。都会で働くよりもおもしろく、地域と関わりながら働きたい人にはうってつけです。

家族で過ごす時間が増えるまち

函館はコンパクトなまち。住む場所にもよりますが、空港や駅、商業施設、海や山などあらゆるコンテンツに自家用車で20～30分程度でアクセスできます。道は広く、運転も楽々です。満員電車に乗る必要もなく、通勤時間も驚くほど短いので、その分家族と過ごす時間をゆったり取ることができ、幸せです。

函館の各種経済団体

函館には函館商工会議所、北海道中小企業家同友会函館支部、函館青年会議所など様々な経済団体があり、勉強会や懇親会などの独自企画も活発に行われています。経営者同士の横のつながりも密接で、事業を展開したい人にとっては地域や他の事業者とつながりを持ちやすい環境が整っています。



移住者が語る函館暮らし

函館を楽しむ我が子の姿が 移住で得た何よりの収穫です

撮影場所：函館朝市ミニ水族館



Keyword

パラレルワーク
地元企業に就職
子育て

ときた

鵜田 花子さん

【前居住地】東京都中野区

【お仕事】フリーランス（国際NGOから業務受託）・会社員（企画制作会社「株式会社シンプルウェイ」勤務）



「移住する前からラグビーをしている長男。函館にはきれいに手入れされた市営のラグビー場があり、ふかふかの芝生のホームグラウンドで思い切り練習できるので、恵まれた環境です」と鵜田さん。



プログラミング教室など子ども向けの講座が低料金で多数実施されている函館。自然環境を活かした体験も豊富で、学童保育所では本格的な登山に挑戦することも。「息子たちの笑顔が増え、移住して良かったなと思います」

過ごしやすさと暮らしやすさを求めて

東京の暑さを逃れるため、北への移住を考えていました。候補地として何度か函館を訪ね、過ごしやすい気候、海があること、都市機能を備えていることなど様々な面で函館に魅力を感じ、家族で移住を決めました。建築物が好きな小学生の息子は「函館は色がたくさんあるね」と東京との違いを楽しんでいます。

東京のキャリアを継続しながら函館で働く

現在は、東京で勤めていた国際NGOの日本事務局から調査等を受託しながら、地元の企画制作会社にも所属し、「はこだて海の教室」の企画運営に携わっています。好きで続けてきた、世界情勢に直結する仕事をしながら函館にも関わることができ、バランスの取れた働き方ができています。

移住者にも手を差し伸べてくれる市民性

函館は親切な人が多く、困った時に周りの人が助けてくれたりどんどん情報が集まってきたりします。以前はすべてが東京を中心に回っているような感覚で暮らしていましたが、函館では良い意味でのカルチャーショックを何度か経験して視野が広がり、物の見方が変わりました。

「住まい」への補助

函館市では移住者が空き家を活用する際の改修費用や、小さいお子様がいる家庭への家賃補助などの事業を行っています。

- 函館市空家等改修支援補助金
- 上記補助金交付決定者への融資制度
- ヤングファミリー住まいりぐ支援事業

◆各事業に関する詳細は函館市のウェブサイトで検索
<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/>



移住前と仕事は変わりませんが 心豊かに過ごせる時間は 増えました

撮影場所：
株式会社ビックボイス 函館道南R&Dセンター

脇 雅俊さん

【前居住地】神奈川県相模原市
【お 仕 事】会社員（IT企業「株式会社ビックボイス」勤務）

Keyword

Iターン
転勤希望



休日を利用して自動車やバイクに乗り、道の駅を訪ねるのが脇さんの楽しみのひとつ。よく行く場所は、函館から車で約1時間の海産物が豊富な「道の駅しかべ間歇泉公園」。安くて新鮮な海鮮丼がお気に入り。



「函館はリフレッシュできる場所が充実しています」と脇さん。思い立った時にふらりと出かけて、時には寄り道したり遠回りしながら景色や体験を楽しんでいます。

東京本社から転勤を希望して函館へ

当社は東京都町田市で創業し、函館を含む道内5都市に拠点を構えています。私は本社勤務でしたが、出張で何度も北海道を訪ねるうちに「自然豊かで食べ物がおいしいこの場所に住みたい」と思うように。とりわけ、都市機能がありながらごみごみしていない函館が気に入り、転勤を希望して移住しました。

退職後に自分らしい時間を過ごせる

移住前と同じクライアントのシステム開発を担当しています。仕事内容は変わりませんが、満員電車で通勤しなくてよかったことは大きな変化です。東京では往復3時間ほど要していた通勤時間も、今は往復約30分に。帰宅後に自炊をしたり趣味を楽しんだりする自分らしい時間が持てるようになりました。

クリエイティブな仕事こそ自然豊かな環境で

人によるとは思います。自分は都会にいるよりも自然豊かな函館の景色を見ているほうが創造性を発揮できます。函館にはIT人材を育成する高等教育機関があるので、函館のIT業界をさらに発展させ、ここで育ったIT人材が地元で活躍できる場を広げていくのが私の目標です。

移住支援金制度

東京23区に在住していた方、または東京圏に在住し23区内に通勤していた方が函館市に移住した場合、移住支援金を支給します。支給額は世帯100万円、単身60万円、起業した場合は最大300万円。申請には所定の要件を満たしている必要があります。

◆詳細は函館市のウェブサイトで検索
<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/>

◆問い合わせ：函館市経済部雇用労政課
電話0138-21-3309



移住者が語る函館暮らし

二世帯で子育て 余裕のある生活が生まれました

SANYU

Suntechno co., Ltd.

Hakodate R&D Center

撮影場所：函館市サンテクノ株式会社

大野 翔平さん

【前居住地】静岡県浜松市

【お 仕 事】会社員（製造業「サンテクノ株式会社」勤務）

Keyword

Uターン
(妻はIターン)

子育て



「函館は混雑が少なく、車があればどこへでも移動できることが魅力です」と大野さん。休日は家族とイベントに参加したり、ドライブを楽しんだりしています。



暮らしやすい気候は函館の魅力の一つです。夏場も過ごしやすく、子ども達と外での遊びを楽しむことができます。自宅近くの「道南四季の杜公園」は大野さん家族お気に入りの遊び場です。

学生時代のつながりを頼りにUターン

函館工業高等専門学校を卒業後、静岡県の企業へ就職をしました。それでも心の中では、「いずれ函館に戻ってくるだろうな」という気持ちがありました。そして子供が生まれたのをきっかけに函館へ。函館高専時代の先生の話聞き、今の会社へ転職を決めました。東京出身の妻は、何度か函館を訪れるうちに自然と気に入り、「移住に抵抗はなかった」と言っていました。

函館でゆとりを持った働き方

仕事終わりは資格取得の勉強をしています。静岡県にいた頃と比べて退勤時間が早くなり、今日は「これをやってみよう」と思える時間ができました。妻も仕事から帰宅した後は趣味に時間を使えるようになり、夫婦共々ワークライフバランスが整い、精神的な余裕が生まれました。

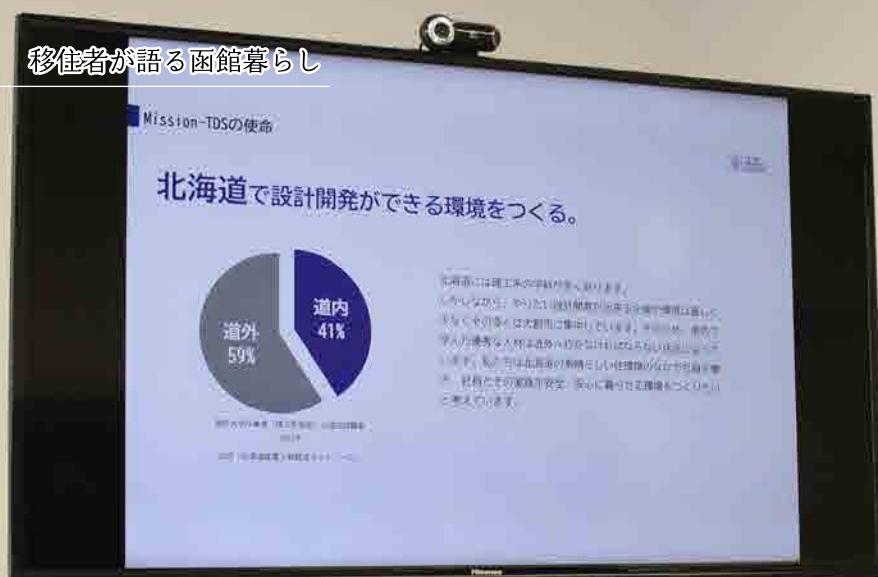
帰郷し頼り合いながら子育て

静岡に住んでいた頃は周りに頼れる人がおらず、子供が熱を出した時はどちらかが仕事を休まなければいけなかったり、仕事が忙しくなると妻に育児の皺寄せが行ってしまったりする状態でした。函館に戻った今は、実家が近くにあるので保育園のお迎えを祖母にお願いしています。息子も従兄弟とよく遊ぶ様になり、おばあちゃんっ子になりました。

ちょっと暮らし in はこだて

函館市への移住を検討されている方に、6泊以上の長期間の滞在に対応した施設をご案内しています。◆問い合わせ：函館市企画部企画管理課（電話0138-21-3621）◆各施設で対応できる日数や適用除外日などは、各施設へお問い合わせください。





「ちょうどいい」のは、
ふるさとの函館でした

撮影場所：函館市株式会社トータルデザインサービス

Keyword

Uターン
地元企業に就職

下河原 智徳さん

【前居住地】神奈川県厚木市

【お 仕 事】会社員（製造業「株式会社トータルデザインサービス」勤務）



「函館には様々な場所に釣りスポットがあり、1年中釣りを楽しむことができます」と下河原さん。道外の友人を連れて釣りに出かけることも。写真は函館市内の釣り場で釣れた48cmの巨大カレイ。



函館から少し車を走らせた所にある、山頂のカフェ「PEAK CAFE」。眼前に広がる駒ヶ岳の絶景を眺めながらくつろぐことができます。美味しいご飯と美しい景色を同時に堪能できるのも、函館の魅力の一つ。

会社の思いに共感し転職を決意

出張でいろいろな地域へ行くことが多かったのですが、30歳になるのを境に、この先どこに住もうかと考える時期がありました。東京交通会館の「ふるさと回帰支援センター」で求人を探し、地元で半導体や機械設計の仕事があったこと、代表の「函館に技術職の受け口を作ろう」という思いに賛同して、戻ることを決めました。当社は「自由」を大切にしている会社で、多くのことにチャレンジできる環境があり、やりがいを感じています。

どこへでもアクセスしやすいのが函館のいい所です

車一台でどこへでも行けることが、函館の良い所です。休日は妻と、ドライブがてら大沼にパンを買いに行ったり、野菜を買いに行ったりしています。思い立ってすぐに車を走らせることが多いですね。早く起きたときは朝風呂へ。漁師町の函館は朝から銭湯が開いているのが他の地域と違っていい所だと感じています。飛行機ひと乗りで都心に行くことができるので、他の都市への交通の便も良いですね。

人の温かさを再実感

函館の人たちは、オープンでフレンドリーな人が多いです。函館に戻ってきた当初は、他の地域とのギャップに驚きました。誰にでも分け隔てなく接してくれて、地元に戻ってきた私を優しく受け入れてくれました。人との関わり合いが好きな人には、とても暮らしやすい所だと思います。

ワーケーション in 函館

函館市では、休暇を楽しみながら働く「ワーケーション」に関する役立つ情報を発信しています。ポータルサイトでは、ワークスペースの紹介だけでなく、おすすめアクティビティやグルメ情報も掲載。函館へのオフィス立地の相談も可能です。<https://h-workation.jp/>



